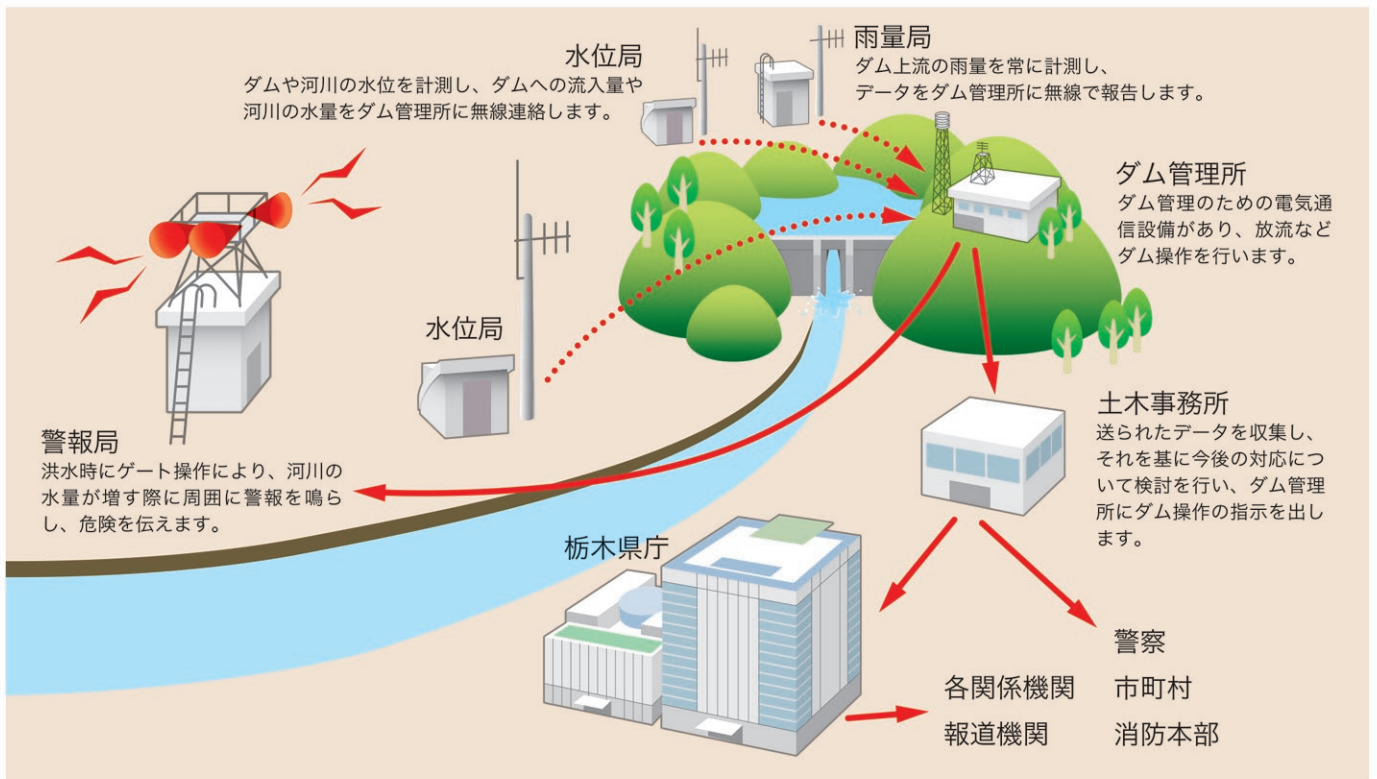


# ダムの管理

ダムは適正に維持管理・運用することにより、洪水や渇水時にその効果を発揮します。このため、ダム管理の上では以下の業務が重要なものになります。

- 監視・予測** 常に気象や雨量などの情報を収集し、ダム湖の貯水量・河川の水位等を監視します。そして、収集した情報を基に河川流量を予測し、今後の対応策について検討を行います。
- ダム操作** 予測に基づき、洪水時にはダムに流水を貯留して洪水調節を行うとともに、渇水時には下流河川に必要な水量を流すなどダム操作を行います。
- 施設の点検・管理** ダム堤体及び周辺施設、機械設備などの点検・整備、また必要に応じて補修を行います。このほか、貯水池内の水質の監視やダム湖に堆積した堆砂量の観測を行います。



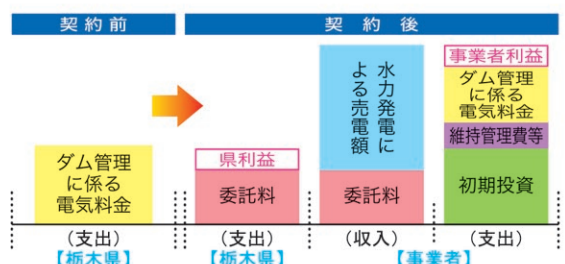
## コラム 管理ダムの有効活用～ダムESCO事業・とちぎダム長寿命化プロジェクト～

栃木県では管理ダムを効率的・効果的に活用するために、「民間活力を活用して省エネルギー化と管理用発電を行う『ダム ESCO 事業』」と「ダム施策の長寿命化を図る『とちぎダム長寿命化プロジェクト』」に取り組んでいます。

「ダム ESCO 事業」は、ダム管理者が民間の持つ資金・経営能力などを活用し、管理用水力発電と既存設備の省エネルギー化を行うことにより、賦存の水力エネルギーの有効活用やダム管理における環境負荷(CO<sub>2</sub>)の低減、更には管理費の削減を図るものです。本事業は、本県が費用をかけず(ゼロ予算事業)に考案した全国初の事業です。

先行して事業を導入した寺山ダムでは、平成 24 年 10 月に 18 年間委託料 0 円の契約を締結しました。その効果として、①県民への安定的な電力の提供(一般家庭約 170 世帯分)②CO<sub>2</sub> 排出量(杉の木約 16,600 本が吸収する量)の低減、③ダム管理費(年間約 300 万円)の削減などが期待されています。今後他の管理ダムにも事業を導入していく予定です。

また、本県は全国に先駆けて平成 22 年度から「とちぎダム長寿命化プロジェクト」にも取り組んでいます。このプロジェクトは、管理 7 ダムの予算の平準化を図りながら、壊れる前に修繕する予防保全による機能維持を行い、ダム施設のライフサイクルコストの観点から、少ないコストでより効率的に建設当初の施設の機能を長期にわたり維持していくこと(長寿命化)を目的としています。また、予防保全を行うため、ダムの安全性も高めることができます。



[ダム ESCO 事業のイメージ図]